

平成30年度 教育事務事業点検評価報告書

令和2年3月
宮古島市教育委員会

目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2
(2) 本市の主要施策		
(3) 点検・評価の方法		
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	2
事務事業点検評価書		
1. I-1	教育の日事業	・・・・・・・・ 3
2. I-2	課題を抱える児童生徒の支援事業	・・・・・・・・ 4
3. I-3	教師力アップLQライフスキル	・・・・・・・・ 6
4. I-4	学校給食半額扶助費	・・・・・・・・ 12
5. II-1	学校支援地域本部事業	・・・・・・・・ 13
6. II-2	新図書館開館へ向けての図書資料・郷土資料等購入	・・・・・・・・ 14
7. III-1	宮古島市neo歴史・文化ロード整備事業	・・・・・・・・ 15
8. III-2	博物館運営事業	・・・・・・・・ 16
9. III-3	学生による現代的なリズムダンス公演（マティダ ストリートダンスパフォーマンス）事業	・・・・・・・・ 17
10. V-1	板倉区児童交流事業（城辺地区）	・・・・・・・・ 18

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第26条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策5項目のうちから10事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

令和2年3月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、今後の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は平成30年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進
- II みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実
- III 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸能活動の推進
- IV 家庭・学校・地域社会の連携で進める青少年健全育成の推進
- V 多都市間交流の推進

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の指標で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

(4) 外部評価委員（学識経験を有する者）

下地 信輔	元宮古島市教育委員
野原 敏之	元宮古島市教育委員
饒平名 和枝	宮古島市文化協会副会長

2. 事務事業評価一覧表

評価書番号	所管課	事務事業名	評価
I-1	教育総務課	教育の日事業	B(継続)
I-2	学校教育課	課題を抱える児童生徒の支援事業	A(拡充)
I-3	学校教育課	教師力アップLQライフスキル	B(継続)
I-4	共同調理場	学校給食半額扶助費	A(拡充)
II-1	生涯学習振興課	学校支援地域本部事業	A(拡充)
II-2	図書館	新図書館開館へ向けての図書資料・郷土資料等購入	B(継続)
III-1	生涯学習振興課	宮古島市neo歴史・文化ロード整備事業	A(拡充)
III-2	総合博物館	博物館運営事業	B(継続)
III-3	文化ホール	学生による現代的なリズムダンス公演(マティダストリートダンスパフォーマンス)事業	B(継続)
V-1	公民館	板倉区児童交流事業(城辺地区)	B(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

教育の日事業「教育を語る市民大会」

【目的・計画概要等】

教育に対する市民の関心と理解を一層深めるとともに、家庭、学校及び地域社会の連携の下に市民全体で教育に関する取り組みを推進し、もって本市教育の充実及び発展を図るため、毎年2月の第3日曜日を「教育の日」として定め、教育の日について市民への啓発を行うため「教育を語る市民大会」を開催する。

【実施状況】

宮古島市教育を語る市民大会 ・教育の日表彰（他の模範となる児童生徒、教育活動に関し顕著な功勞、功績のあった者） ・教育の日標語・川柳募集（小学校、中学校、高校・一般の部） 各部門、最優秀1点、優秀賞2点の合計6点について表彰 表彰の作品は、市内各所へ看板を設置 ・実践報告「本市の学力向上対策について」 ・生涯学習舞台発表 ・教育に関する公開対談 俳優武田鉄矢氏、テレビドラマプロデューサー山本敏彦 市民からの教育に関する質問に答える形で対談を行った。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	700,536 円
	計	700,536 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	地域社会への啓発が市民への教育に対する関心を高め、人材の育成と生涯学習の振興に寄与する。	総合評価：B（継続） 本事業は、人材育成と生きがいある生涯学習社会の実現を目指し、内外に広くPRすることで地域社会へ啓発を促す事業である。継続して実施することで宮古島市民への教育への関心を高め、宮古島市の発展を推進していくものと考えられる。 今回は、俳優武田鉄矢氏が出演したことで多くの市民が来場し、本市の教育に関する取り組みをPRできた。
効率性	啓発事業として、時季対象とも適切であり、相当の効果を期待できる。	
有効性	毎年、著名人等による講演を行うことで市民の関心は高まってきている。 継続実施によりさらに教育に対する	

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

教育の日事業は、教育に関する標語・川柳の選定、学力向上の取り組みの報告、善行児童生徒・教育功勞者への表彰等、市民への教育に対する啓発を行っている。平成31年度に完成する未来創造センターも活用し、生涯学習関係団体とも連携しさらに充実した市民大会となるよう取り組んでいく必要がある。	総合評価
	B

【外部評価】

目的である家庭の教育力、市民の教育力は高まり、その結果として児童生徒の資質・能力はどう変化していったのか等について追跡調査などを行い、改善を図っていくこと。費用対効果をしっかり把握していく必要があると考えます。	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

課題を抱える児童生徒の支援事業

【目的・計画概要等】

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題を抱える児童生徒に対し、関係機関や児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて、問題の改善を図ることを目的とする。
個々に応じた支援の充実に向けて、SSW（スクールソーシャルワーカー）を教育委員会に配置するとともに、課題を抱えた児童生徒に対しては、適切な指導・支援の取り組み強化のため問題行動学習支援員を在籍する学校に配置する。

【実施状況】

平成30年度の支援状況 SSW6名を担当校に派遣し、支援を行うとともに、学校、福祉、医療等の各関係機関と連携し、児童生徒の環境改善を図った。 ・平成30年度支援対象児童生徒数 <table border="1"> <tr> <td>小学校</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>46名</td> </tr> </table> 問題行動等学習支援員3名を3校に配置予定であったが、人材が確保できずに配置できない学校があった。 <table border="1"> <tr> <th>配置校</th> <th>支援員数</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>平良中学校</td> <td>1名</td> <td>6月18日より配置</td> </tr> <tr> <td>佐良浜中学校</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>北中学校</td> <td>0名</td> <td>未配置</td> </tr> </table>	小学校	37名	中学校	46名	配置校	支援員数	備考	平良中学校	1名	6月18日より配置	佐良浜中学校	1名		北中学校	0名	未配置	決算額（財源内訳）	
	小学校	37名																
	中学校	46名																
	配置校	支援員数	備考															
	平良中学校	1名	6月18日より配置															
	佐良浜中学校	1名																
	北中学校	0名	未配置															
国・県	10,056,000 円																	
地方債	0 円																	
その他	0 円																	
一般財源	1,514,030 円																	
計	11,570,030 円																	

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	課題を抱える児童生徒及び家庭は、年々増加、複雑化しており、支援のニーズは高い。	総合評価：A（拡充）
効率性	SSWは、派遣型の体制で学校からの要請により、生徒指導主任を中心とした行動連携を図っている。問題行動等学習支援員は配置校において、対象児童生徒に対しての相談活動や学習指導、校内生徒指導体制、教育相談体制の確立を図っている。	課題を抱える児童生徒の支援内容が多様化し、福祉・保健・医療等関係機関との連携や校内生徒指導体制の充実も重要となっている。 【成果】 SSWを介して学校、関係機関等との連携が図られ、各機関の役割分担が明確化され、きめ細かな支援体制が構築されている。問題行動等学習支援員の配置校では、支援員による学習支援や教育相談活動を通して対象児童生徒への計画的な支援が図れている。
有効性	関係機関との連携や校内生徒支援体制の充実を図ることで、多様な課題の解決を図ることができる。	【課題】 児童生徒の抱える課題が複雑化しており、研修等を通して、SSW、問題行動等学習支援員の資質・能力の向上が求められている。 人材確保が困難。

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

本事業におけるニーズは高く、SSW一人あたりが抱えるケースは増加し続けており、近年増加している不登校や児童虐待など支援内容も重要度が高まっています。、問題行動等学習支援員においても、児童生徒の家庭環境の複雑化、学校における教職員の働き方改革に伴い、ニーズが高まっています。本事業においては、課題解決の迅速性が求められており、SSW、問題行動等学習支援員、市相談室など関係機関の連携を密する為の組織づくりを図って参ります。

総合評価

A
(拡充)

【外部評価】

支援対象の児童生徒は、29年度よりも増加している状況でSSWや支援員のニーズは高まっていると考えます。しかし、支援を必要とする児童生徒や保護者の中には、支援員や学校任せにして、あまり努力せず向上意識の低いのも多々見られますので、支援を受けた成果としての児童生徒、保護者の変容をしっかりと分析していく必要があると考えます。

総合評価

A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

教師力アップLQライフスキル

【目的・計画概要等】

(1) 教育における支持的風土や集団づくりのノウハウを学ぶとともに、教員としての指導力向上の機会とする。
 (2) 指導スキルの実践から教師や児童生徒の変容から、本市における教育効果をとらえる材料とする。
 (3) 本プログラムの実践をもとにした、幼小中学校における一貫した教育理念を持つことや子ども達への教育の方向性を統一する。
 という趣旨で実施
 2018年度から5カ年の計画で宮古島市全教職員に受講する。

【実施状況】

実施： 伊良部公民館	決算額（財源内訳）	
受講者数： 63名	国・県	円
研修会について：別添資料参照	地方債	円
事業開催支援交付金として751,858円収入（令和元年5月29日領収）	その他	751,858 円
	一般財源	1,280,020 円
	計	2,031,878 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	児童生徒の学級づくり・集団づくりにおいての教職員の資質向上を高める上で必要性がある。	総合評価：B 別添資料にもあるとおり、研修会の内容について受講者の感想や反応が良く、今後の実践に役立つものと評価できる。
効率性	中学校区単位で全教職員が受講するため、学校全体の取組として課題解決の手段の方向性を統一しやすい。	
有効性	児童生徒の夏期休業中の実施であるため、1学期の反省を受けて2学期への実践に向けてのいい機会となっている。	

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

学校教育において集団づくりは、子ども達の支持的風土づくりに重要な教育技術である。別添資料において、受講者の声から受講後の教育活動の充実が期待される研修内容である。今後中学校区を核とした、受講を全市へ展開していくことで教師の資質向上につながると期待される。	総合評価
	B

【外部評価】

当初予算の3分の2がライオンズクラブから事業開催支援金として交付されたのは、大変ありがたいことだと考えます。だからこそ、受講した教員側の資質・能力が高まり、教師の指導力、学校の教育力はどれくらい高まったのかを検証し、その結果として児童生徒の資質・能力がどう変化したのかを分析していく必要があると考えます。	総合評価
	B

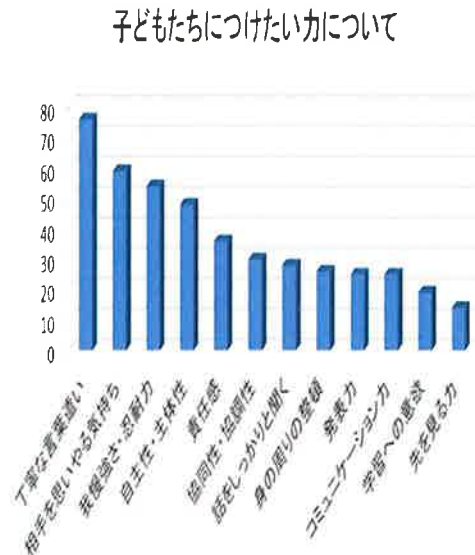
平成30年度ライオンズクエストワークショップを終えて

宮古島市立教育研究所

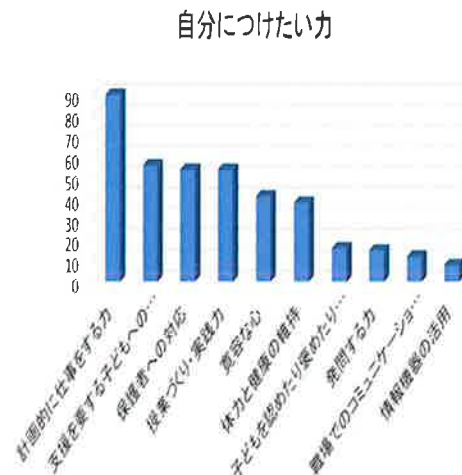
【事前アンケートについて】

*平成30年7月に市内全小中学校対象に調査（223名回答）。まとめて明記

1 子どもたちにつけたい力について	
丁寧な言葉遣い	76
相手を思いやる気持ち	59
我慢強さ・忍耐力	54
自主性・主体性	48
責任感	36
協同性・協調性	30
話をしっかりと聞く	28
身の周りの整頓	26
発表力	25
コミュニケーション力	25
学習への意欲	19
先を見る力	14



2 自分につけたい力	
計画的に仕事をする力	90
支援を要する子どもへの対応	56
保護者への対応	54
授業づくり・実践力	54
寛容な心	41
体力と健康の維持	38
子どもを認めたり褒めたりする	16
発問する力	15
職場でのコミュニケーション力	12
情報機器の活用	8



【研修内容について】

*二日目（平成30年8月14日、16日）受講終了後に回答

○受講者数：63名（Aグループ35名、Bグループ28名）

学校所属：東幼稚園2名、南幼稚園1名、佐良浜幼稚園1名、伊良部幼稚園1名

上野小4名、佐良浜小10名、伊良部小13名

上野中7名，佐良浜中10名，伊良部中12名，市教委2名

○研修プログラムについて

一日目：ライフスキルとは何か（Aグループ8月13日，Bグループ15日実施）

- ・知り合う活動
- ・子どもたちの課題とライフスキル
- ・ライフスキルの授業スタイル
- ・ライフスキル教育の内容と授業（内容理解，授業体験）
- ・集団のスキル（ルールづくり）
- ・振り返り，まとめ

二日目：楽ティブラーニング（Aグループ8月14日，Bグループ16日実施）

- ・知っている人を知っている能力（助けを求める，視点獲得）
- ・問題解決（課題の明確化，目標設定）
- ・アクティブラーニングの要点（自身と自尊感情）
- ・振り返り，まとめ

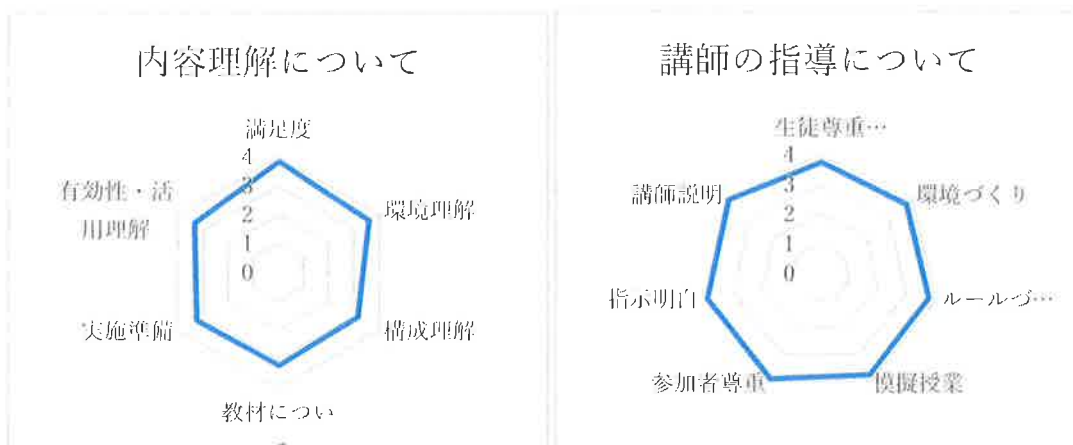


* 研修の様子

○研修についてのアンケートについて(受講者のうち60名回答)

質問		平均点数
内容理解	ワークショップは満足した	3.82
	「安全で安心できる」環境がどのようなものか理解した	3.57
	配られた教材それぞれの内容や使い方、構成を理解した	3.13
	学校に戻って、体験した授業を実施する(試す)準備ができた	3.22
	「振り返り」の有効性や活用の仕方を理解した	3.4
	生徒を尊重した対応とはどのようなものかを理解した	3.73
講師の指導	「安全で安心できる」環境づくりがされたと感じた	3.72
	効果的なルールづくりが実施されたと感じた	3.75
	各授業の構成(4段階)を示して実施された模擬授業はわかりやすかった	3.8
	多種多様な答えを受容し、参加者を尊重した対応をしたと感じた	3.95
	講師の指示は明白でわかりやすかった	3.9
	全体を通して、講師の説明はわかりやすかった	3.97

* 4点満点



○感想について *多かった回答をまとめて明記

- ・現場に戻って実践可能な教材だと思うので、二学期から活用したい。
- ・他校種、他校との先生方と交流しながら行えたのでとてもためになりました。
- ・学校の全職員ほとんどが受講したので、一枚岩になって課題に取り組めると感じました。
- ・役割を持ってグループ活動に取り組むノウハウがわかりました。
- ・このプログラムは学校教員のみならず保護者にも必要なものと感じました。
- ・このプログラムの実践は、大人である教員や保護者がしっかりと学び子どもたちへ伝えていく必要があると感じました。
- ・ワークショップを受講しながら、授業や学活などを想定することができました。
- ・ルールづくり等を学級の子どもたちとともにつくっていきたいと思えた研修でした。

- ・理論と実践が密接した研修でとてもためになりました。
- ・主体的に受講できたワークショップでした。これを学級や授業でも活かしたいと思いました。
- ・幼小中の先生方が交流しながら行えた研修だったので、様々な見方考えた、共通した見方考え方などを感じることができとても為になりました。
- ・子ども目線で受講できることができたプログラムで、自分でも日々考えながら実践できると感じました。
- ・子どもたちを主体的に活動できるような声かけや支援をする力を身につけていかなければならないと思いました。
- ・今までの授業や学級での指導を振り返ることができました。
- ・幼稚園でも通じる研修だと思いました。園に戻ってクラスづくりに役立てたいです。

【研修後の教師の活動実際について】

- ・授業の導入などで、児童へどのように話したら理解するのかなど、表現方法や伝わり方などを意識するようになった。
- ・児童がのびのびと学び合えるようにするためのファシリテーターとしての役割を自覚するようになった。
- ・職場でのコミュニケーションをしっかりと意識的にとるようになった。
- ・児童理解のために、声かけや看取りを意識的にするようになった。
- ・授業等での話し合い活動や協働学習に活用している。
- ・朝の会や学級活動などで、集団形成のためにゲームなどを取り入れた。
- ・ペア学習の素地づくり（隣の人から意見を聞くことや伝えることなど）となった。
- ・グループ内発表において児童それぞれが役割を持ち、会を進めていく活動を行った。

【今年度研修を実施して】

- ・学校全体で受講したため、学校全体の課題の解決に向けてこのプログラム実践の共通理解が図れた。
- ・幼小中の教員という他校種にわたる受講となったので、様々な考えを交流するいい機会となり、現任校に活かす材料となった。
- ・8月の実施であったので、一学期の課題解決を二学期当初に学校全体で学級活動や授業を主とした取り組みができる研修内容であった。

【平成31年度実施に向けて】

- ・平成31年度は北中学校，北小学校，東小学校の3校の職員全員の受講（約80名）を予定している。
- ・学校課題を明確にし，その解決に向かうためにもこの研修を学校全体（管理職も含む）

で受講してもらいよりよい職場や学級での集団づくりに目指してもらいたい。

- ・次期学習指導要領における「主体的で対話的で深い学び」の実現に向けた、教師の指導力向上を目指した研修プログラムとする。

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：共同調理場

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

学校給食半額扶助費

【目的・計画概要等】

子育て支援および子供の貧困対策として、すべての小中の児童生徒を対象に給食費の半額を助成する。

助成額（1人あたり）

小学生：月額1,750円 日額97円
中学生：月額2,000円 日額110円

【実施状況】

【平成30年度実績】 小学生年間 月額：37,929名×1,750円=66,375,750円 日額：263名×97円=25,511円 中学生年間 月額：17,414名×2,000円=34,828,000円 日額：167名×110円=18,370円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
地方債	円	
その他	30,000,000 円	
一般財源	71,247,631 円	
計	101,247,631 円	

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	子育て支援および子供の貧困対策として必要な事業である。	総合評価：A これまで、子育て支援及び貧困対策として扶助費を支給してきたが、さらなる支援等を行う必要があるため、無償化等の検討を行う必要がある。
効率性	給食費支払後に保護者への扶助費支給ではなく、扶助費を給食会計へ代理納付を行っているため、保護者が行う事務等の負担軽減となっている。	
有効性		

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

半額扶助を行うことで、子育て世代への支援・負担軽減及び子供の貧困対策を行うことが出来た。	総合評価
	A

【外部評価】

表に出ない子供の貧困問題が注目されています。また、先生や保護者の負担も減る学校給食無償化へ向け期待します。	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅱ-1 みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

学校支援地域本部事業

【目的・計画概要等】

学校職員や地域の大人が子ども達と向き合える時間を確保し、地域の教育力の向上を図るため、地域住民がボランティアとして学校支援活動ができる体制づくりを推し進め、学校を含めた地域コミュニティの活性化を目指す。また、地域コーディネーターを活用し、地域ボランティア募集広報活動、ボランティア等の確保や地域ボランティアとの連絡調整、地域の実情に応じた活動プログラムの企画、支援等を行う。

【実施状況】

実施校区：平良中校区学校支援地域本部（平良第一小、南小、平良中）
佐良浜中校区学校支援地域本部（佐良浜小、佐良浜中）

活動状況としては、地域コーディネータ2名を配置し、朝の読み聞かせ、あいさつ運動、登下校安全指導・安全マップ作り、総合的学習「郷土の歴史文化・方言等の調べ」支援、十五夜シーシャ作り、伊良部トীগニの三線指導等を実施している。

決算額（財源内訳）	
国・県	829,000 円
地方債	円
その他	円
一般財源	451,861 円
計	1,280,861 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	学校と地域社会の連携体制を構築し、地域住民の参画を得て子ども達の健やかな成長を育む環境づくりが必要である。	総合評価：B＝継続 地域が学校を支援することで、学校と地域間の信頼関係が築け、児童・生徒が地域を理解し地域に関心を持ち郷土愛を育むことに繋がっている。また、地域コーディネーターを仲介役として学校を支援することにより、教職員の負担軽減に繋がり、児童・生徒への指導にゆとりを生む手助けとなっている。
効率性	学校と地域を繋ぐ人材がいる事で、事業を達成するための一定の効率性が認められる。	
有効性	地域と連携することで、子ども達だけではなく地域の教育力に繋げると共に、活動を通して自身の能力育成に有効である。	

* 総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

学校支援地域本部事業は、学校職員や地域の大人が子ども達と向き合える時間を確保し、地域の教育力の向上を図るため、地域住民がボランティアとして学校支援活動を行うことができる事業であり、両校区共に、学校を含め地域の子どもは地域で育てる意識も高まっており、今後も継続が必要である。	総合評価 B
--	-----------

【外部評価】

少ない予算ではありますが、学校と地域が一体化することにより児童生徒が自分の住む街の歴史を学ぶことはとても良いことだと思います。現在、2校区だけと伺っていますが、予算を確保し全学区にコーディネーターを置くことにより、より充実した教育ができると思います。	総合評価 A
---	-----------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：図書館

【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

新図書館開館へ向けての図書館資料・郷土資料等購入

【目的・計画概要等】

新館のコンセプト『すべての市民にサービスを提供する図書館』、『市民生活に役立つ図書館』を目指し、新図書館開館までに開架冊数12万冊（移動図書館除く）の達成に努める。（目標数値は新図書館基本計画による）

【実施状況】 新館移転の平良図書館・北分館のみ

	H29年度	H30年度	計	蔵書冊数 平成28年度末95,129冊 平成30年度末135,016冊 (うち新館開架冊数13万冊)	決算額（財源内訳）		
					国・県	円	
購入冊数	7,670	36,033	43,703	注：蔵書冊数→所蔵するすべての資料総数 開架冊数→蔵書のうち書庫に保存する資料を除いた、閲覧スペースへ配架した資料数。	地方債	円	
貸出冊数	151,424	82,399	233,823		その他	円	
来館者数	55,558	35,789	91,347		一般財源	25,058,817 円	
※北分館は平成29年12月閉館、平良図書館は平成30年11月閉館					計	25,058,817 円	

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	図書館は生涯学習の拠点施設であり、暮らしに必要な情報を得る情報センターとしての役割もあることから、幅広い分野で新鮮な情報を得ることのできる資料が必要である。	総合評価： A 新館開館へ向け、宮古島市立図書館資料収集方針を見直し、新図書館蔵書構成計画の分類毎構成比率に留意しながら図書資料を購入し、新図書館基本計画の開館時目標数値に達することができた。また新図書館システム更新に向け、図書資料のデータ整理、図書へのICタグの貼付作業を30年度中に行ったことで、新図書館への図書資料の移動・整理・新システムへの移行をスムーズに進めることができた。
効率性	図書資料の充実とともに、時事に合わせた特集コーナーの設置、各種行事を実施し、市民に役立つ図書館としての情報発信を行う。	
有効性	市民のニーズに応える資料収集や各種行事を通し、読書環境の整備・習慣化の支援を図っており、新館開館後の利用向上へと繋げていくことができる。	

【内部評価】

図書館は、市民の学習や調査研究、課題解決を支援する生涯学習施設である。その図書館サービスの向上のためには図書資料の充実が最も重要なものであり、新館開館までの資料購入計画を作成し、取り組んできたことが、新館開館後の貸出数・利用者数の向上につながったものと考えられる。今後は更に図書のリクエストサービスの周知や利用者へのアンケート等を実施し、利用者のニーズに応える図書資料の充実に取り組んでいきたい。	総合評価 B
--	-----------

【外部評価】

新図書館開館へ向けて、分類ごと構成比率に留意しながら、新館開架目標冊数13万冊以上の整備や、時代を見据えた新図書館システムの導入（ICT化）などの準備・作業を円滑に進め開館を迎えたことは、職員や関係者の皆様のご尽力の賜物であり高く評価できる。「すべての市民にサービスを提供する図書館」、「読書・学習・情報センター」としての役割や機能を十分に果たしうる設備や配架資料数（蔵書数）であるといえよう。新図書館への市民の期待は大きく、充実した設備や機能を生かし、貸出冊数の増加、利用者の拡大に繋がるものとする。今後とも利用者のニーズに応える読書環境の整備・充実に努め、図書館サービスの向上に努めていただきたい。	総合評価 B
---	-----------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅲ-1 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

宮古島市neo歴史・文化ロード整備事業

【目的・計画概要等】

宮古島市は、平成17年の市町村合併に伴い県内最多の約150件もの文化財が宮古島市各地に点在している。その文化財を各地域ごとに散策コースとして策定し、広く周知活動を展開することで、宮古島市特有の文化観光を目的とした観光客層の集客増加が期待でき、地域においては、注目される観光資源が身近にあることで、文化財保護意識の向上などの相乗効果も期待できる。
令和元年度は、次年度以降の策定予定地区の資料収集を行いながら、伝説と民話に彩られたロマン溢れる、宮古島特異の歴史と文化を巡る新たな「綾道」コースの環境整備を行います。

【実施状況】

	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
① 「綾道」コース環境整備除草清掃作業 策定コース内の43箇所の文化財を年5回除草清掃作業を実施した。	17,654,000	円
② 宮古島市文化財WEB公開システム追加・更新業務		円
③ 「綾道」新規コース城辺北・城辺東コース策定。12,000部印刷		円
④ 「綾道」平良北コースパンフレット増刷。6,000部印刷		円
⑤ neo歴史文化ロード文化財説明版設置（説明版9基・標柱1基）	4,414,112	円
	計	22,068,112 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	製作したパンフレット「綾道」もコンスタントに配布されており、市民で「綾道」を利用した史跡巡りや観光面で広く活用され評価も高い。	総合評価：A＝拡充 各地域の「綾道」散策コースを策定することにより、地域の歴史・文化の掘起こしにも繋がり、宮古島市の歴史・文化を観光資源として利活すると共に、市民の郷土史への関心や、文化財愛護精神の啓蒙にも繋がっている。
効率性	除草清掃作業は、夏場に3回、冬場に2回と下草の成長が早い夏場に重点を置くなど事業の効率化を図って、適正管理を行っている。	
有効性	宮古島市の歴史・文化への観光需要を満たすとともに、市民の郷土史への関心や、文化財愛護精神の啓蒙にも繋がるなど有効性は高い。	

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

宮古らしさに特化した文化財を中心に伝統と民話に彩られたロマンあふれる散策コースを整備し、新たな観光資源として広く活用するため、これまでのコースに城辺北・城辺東コースを追加すると共に、文化財WEB公開システム追加・更新及び案内板の設置など宮古島市の歴史と文化を感じてもらう事業となっており、今後も市民の文化財保護意識の向上を図る意味でも更なる拡充が必要である。	総合評価 A
---	-----------

【外部評価】

「綾道」は宮古島を訪れる観光客はもとより、地元の人にとっても郷土の歴史を知る上でとてもよくできたパンフレットだと思います。新しいのはもちろんですが、過去に発刊した「綾道」もできれば改訂版を発行して欲しい。より一層の予算の確保を求めます。	総合評価 A
--	-----------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：総合博物館

【主要施策】

Ⅲ 文化振興 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

博物館運営事業

【目的・計画概要等】

資料の収集・保管を強化し、目録資料作成に向けた資料の整理業務を引き続き実施していくとともに、調査研究を促進することで、地域の財産を未来の人々に継承していく。また、常設展示の刷新を図り、先人の思いを伝えていく。そして、展示や企画展を通して市民が歴史の内容や民俗の営み、自然の豊かさを再発見し、島のアイデンティティを感じられる場となるような事業を推進する。

【実施状況】

<p>展示会・企画展の開催を充実することにより、総合計画で掲げる年間入館者目標値1万5千人を達成できた。 しかし、資料の保管状況については、施設が老朽化していることもあり、達成度は低い。収蔵庫の温度管理、湿度管理及び収蔵スペースの確保は特に困難である。建設物としての刷新が必要である。常設展示の刷新については施設の改修を伴うこと、及び資料情報の整理状況から非常に困難であると判断する。</p>	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	10,675 円
	計	10,675 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	博物館法に基づく事業	<p>総合評価：博物館運営事業を継続する。 今後の運営事業については、企画展・特別展の効率化を図るため、展示ケースや特別展の照明などの工夫を見当する必要がある。</p>
効率性	博物館運営事業は効率性を求めるより、一定の成果が求められる作業であると。	
有効性	博物館の運営は、一般公衆に対し公開・頒布することにより、文化の継承に資することができる。	

【内部評価】

<p>指標としての入館者数の目標を達成できたことは評価できる。 運営の手法として展示会などに注力したことが要因であると判断できる。 今後も課題として、施設の改修や刷新について検討していく。</p>	総合評価
	B

【外部評価】

<p>宮古島市総合計画で掲げる年間入館目標者数1万5000人を達成したことは、素晴らしいことである。特別展や企画展、子ども博物館等の企画内容が充実し、多くの人々の学習意欲が喚起され、博物館の魅力を発信しているからだと考えられる。高く評価したい。 一方では、施設の老朽化や収蔵品の増加等から設備の不十分な点が指摘されており、展示等への影響からも何かしらの対応策が必要であろう。 今後とも、運営事業の充実を図るとともに、資料収集や調査研究の成果を生かして、学芸員を中心に市民に提供したい事業をプロデュース・公開し、教育・文化施設としての役割を担っていただきたい。</p>	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：文化ホール

【主要施策】

Ⅲ-3 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

学生による現代的なリズムダンス公演（マティダストリートダンスパフォーマンス）事業

【目的・計画概要等】

「生きる力」を育むことを目的に学習指導要領にも取り入れられている「現代的なリズムダンス」を通して、児童・生徒・学生らによる新しい地域文化の創造、仲間との交流を育むことを目的に「マティダストリートダンス3」を開催する。また、開催にあたり表現力や演技力の向上を目的として、プロダンサーによる指導を組み込んだワークショップ「2019スプリングダンスキャンプin宮古島」を実施する。

【実施状況】

「2019スプリングダンスキャンプin宮古島」（ダンス講師レッスン） 開催日：平成31年3月23日（土）24日（日） 参加者構成：合計82人 ①島内参加者65人／宮古高校ダンス部・平良中ダンス部・久松小・GBダンススタジオ所属小・中・高・一般 ②島外参加者17人／知念高校ダンス部・各ダンススクール所属小・中・高・一般 マティダストリートダンスパフォーマンス「マティダン！3」（本公演） 開催日：平成31年3月24日（日） 入場者数300人 活動状況：実行委員会・制作会議・演出会議・技術会議・進行台本制作告知活動・ダンスコンテスト・ダンスバトル	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	2,155,563 円
計	2,155,563 円	

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	学習指導要領で必修化され、教育的観点からも必要な事業。劇場アンケートでダンス公演要望多数。	総合評価：B＝継続 本島・宮古・八重山地区の児童・生徒・学生・一般がストリートダンスを通じて交流することで刺激し合い、互いの表現力・演技力を高められた。 また、ダンス講師陣が演技指導のみならずダンスの種類や歴史をレクチャーし、ダンスの中身についてより深く学ぶことができた。さらに県内コンテストの優秀作品演技やプロダンサーの演技を鑑賞することで、ダンスに対するモチベーションも高まりスキルアップが図られた。
効率性	前回2回に分けて事業を実施したが、事務や制作作業が重複した。今回は連続2日の日程で実施した。	
有効性	プロダンサーによる指導は、質の高い表現力向上に必須であり、事業にとって有効である。	

【内部評価】

県内の各地域との交流により、仲間との共感・一体感を育むことができ、「生きる力」を育むことの一助になったと思う。また、講師陣の親切丁寧な指導によりダンスに対する認識も深まり、表現力の向上にも繋がったと思います。更に、学生による新しい地域文化の創造や子ども達の健全育成並びに教育現場での教師によるダンス指導のサポートが少しでも出来ればと考えております。	総合評価
	B

【外部評価】

平成30年度で3回目を迎える文化ホール自主事業。県内各地より参加者も増加し、広がりを感じさせる。2日間の日程で構成され、プロの講師陣によるワークショップを中心に、ダンスの歴史や表現の仕方を学び、2日目参加者がダンスパフォーマンスを披露する活動は、子どもたちにとってコミュニケーションを豊かにし、ダンスの表現力・演技力が向上する絶好の機会となっている。また、中学校・高校の保健体育で必修となっている「現代的なリズムダンス」への波及効果も大きい。さらに、舞台芸術を創る活動は、仲間意識や一体感をはぐくみ人間形成の面からも教育的価値が大いに評価できる。よって今後とも継続が求められる事業である。	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：中央公民館（城辺公民館）

【主要施策】

V 文化振興 多都市間交流の推進

【事務事業名】

板倉区児童交流事業（城辺地区）

【目的・計画概要等】

多感期にある青少年情操教育の1つとして、城辺地区の児童と歴史的に深いつながりを持つ、新潟県上越市板倉区の児童がホームステイで交流し、お互いの地域文化に触れることを目的に平成6年から行われ、今年で26回目となる事業です。

【実施状況】

夏期交流8月（3泊4日）の日程でホームステイ交流団（派遣児童8名、引率者3名）が来訪しました。歓迎会、ホームステイ交流、博物館・地下ダム等見学、海水浴体験、人頭税及び宮古島に関する学習などを体験し、歴史・文化の違いや南国家族ができた事で実りある交流ができた。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
地方債	円	
その他	円	
一般財源	1,057,030 円	
計	1,057,030 円	

冬季交流1月（4泊5日、内1泊：東京）の日程でホームステイ交流団（派遣児童8名、引率者3名）が往訪しました。歓迎会、ホームステイ交流、学校交流、中村十作記念館・水族博物館等見学、スキー体験交流を体験した夏期交流からの再会もあり、友好を深めていた。26年目の交流を終えて、東京はとバス観光では、皇居前広場・浅草観音と仲見世（自由散策）・東京タワー展望台等の見学して1泊後、宮古空港着にて解散。

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	人頭税廃止国会請願を通し、中村十作氏を始めとする関係者の郷土・兄弟・友人愛等や歴史を知る。	総合評価：B 今から約125年前、板倉区稲増出身の中村十作氏が宮古島人頭税廃止に尽力されたことを縁として夏・冬相互のホームステイ交流を通し両地域を結ぶ歴史を学び、風俗や文化の違いなどを体験することにより、広い視野と郷土を愛する心を持った児童を育てると共に両地域の一層の友好親善を深める交流事業である。
効率性	児童交流で子供達の成長が窺える。将来必ずや交流の成果が期待できる。大人になっても交流あり。	
有効性	ホームステイ家族間の交流・子供同士の交流や地域間交流が継続している。	

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

夏に板倉区より訪問団が来島し、冬に城辺地区の児童が板倉区へと相互のホームステイ交流事業は、交流事業後もホームステイ相手と交流を続ける家庭も多く、青少年情操教育を担っている。ただ、両地域とも児童数の減少により、参加者の減少が懸念されるが、学校や上越市と意見交換等行い事業継続に努めたい。	総合評価 B (継続)
--	-------------------

【外部評価】

城辺地区の児童生徒が減少していく中で、事業の継続は大変だと思います。しかしながら、中村十作をはじめ城辺地区の英雄たちを忘れるわけにはいきません。また、中村十作がつかない板倉区との交流も続けることにより児童生徒によりよい影響を与えるものと確信します。	総合評価 B
--	-----------